

上田市文化財調査報告書第 83 集

市 内 遺 跡

平成 11 年度市内遺跡発掘調査報告書

2000. 3

上 田 市
上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第 83 集

市 内 遺 跡

平成 11 年度市内遺跡発掘調査報告書

2 0 0 0 . 3

上 田 市
上田市教育委員会

例　　言

- 1 本書は長野県上田市における各種開発事業に伴う、平成 11 年度市内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は国庫補助事業・県費補助事業として、上田市（上田市教育委員会事務局文化課）が実施した。
- 3 現地調査は上田市教育委員会事務局職員があたり、各調査ごとにその氏名を記した。
- 4 現地調査は主としてバックホーによるトレンチ調査で行った。バックホーの賃貸借・運転については、和農興 竹内和好が行った。
- 5 本調査にかかる資料は、上田市立信濃國分寺資料館に保管している。
- 6 本調査にあたり、開発施工主・担当課には調査実施にかかる調整等、格段の御協力をいただいた。
- 7 本調査にかかる事務局の体制は、以下のとおりである。

教育長 我妻 忠夫

教育次長 内藤 政則

文化課長 川上 元

文化財係長 細川 修

文化財係 平林裕蔵、中沢徳士、塙崎幸夫、久保田敦子、西澤和浩(平成 11 年 9
月 30 日退任)、清水 彰、小笠原正、須齋千恵子

- 8 本書作成にかかる作業は、以下の通り分担して行った。

現地調査 中沢、清水、小笠原

整理作業 市村みつ子、大井敬子

遺物写真 小笠原

執筆・編集 小笠原

目 次

例 言

目 次	1
-----	-------	---

平成 11 年度試掘調査地点位置図	2
-------------------	-------	---

染屋台条里水田跡遺跡（共同住宅建設）	4
--------------------	-------	---

国分遺跡群 I（市道川辺町・国分線建設）	7
----------------------	-------	---

国分遺跡群 II	10
----------	-------	----

国分遺跡群 III（市道川辺町・国分線建設）	12
------------------------	-------	----

反田遺跡（主要地方道上田丸子線バイパス建設）	15
------------------------	-------	----

国分寺周辺遺跡群（上田市立神川小学校体育館建設）	18
--------------------------	-------	----

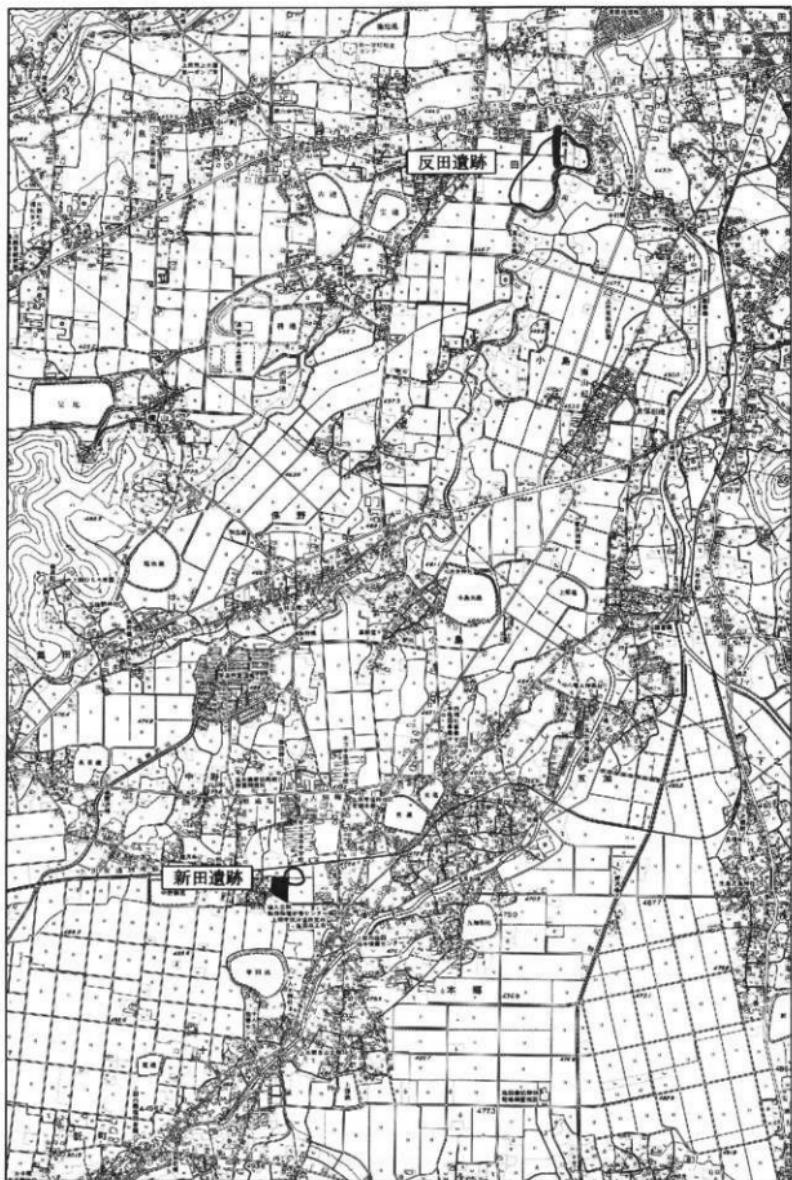
常入遺跡群（下町田遺跡・信州大学織維学部福利厚生施設建設）	20
-------------------------------	-------	----

新田遺跡（上田市立塙田中央保育園移転建設）	22
-----------------------	-------	----

試掘調査出土遺物	24
----------	-------	----

写真図版

報告書抄録



平成 11 年度試掘調査地点位置図



平成 11 年度試掘調査地点位置図

染屋台条里水田跡遺跡

- 1 調査地 上田市大字古里字松ノ木
- 2 原因 共同住宅建設
- 3 開発面積 1,522 m²
- 4 調査日 平成11年6月21日
- 5 調査方法 幅約1mのトレンチを2本入れる。
- 6 調査担当者 小笠原 正

遺跡の位置と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の東北部、千曲川と神川によって形成された段丘上に位置する。遺跡分布図では、染屋台条里水田跡遺跡として段丘上全体が埋蔵文化財包蔵地として括られているが、水田跡は現在のところ発見されていない。しかし、これまでの発掘調査で段丘上にはいくつかの遺跡が存在することが確認されている。包蔵地が広範囲に及ぶため調査遺跡名は字名を使用し区別している。最近では大畠遺跡(1995年・中世)、古城遺跡(1996年・平安)、西の手遺跡(1996、1997年・弥生後期～古墳後期)、上沖遺跡(1997年、古墳中期・平安)で調査が行われ各時代の遺構・遺物が確認された。

今回、共同住宅建設を行うにつき平成11年3月18日付で事業主から開発事業届が提出されたため、試掘調査が必要であるとの意向を伝えた。その結果6月21日に試掘調査を実施することになった。

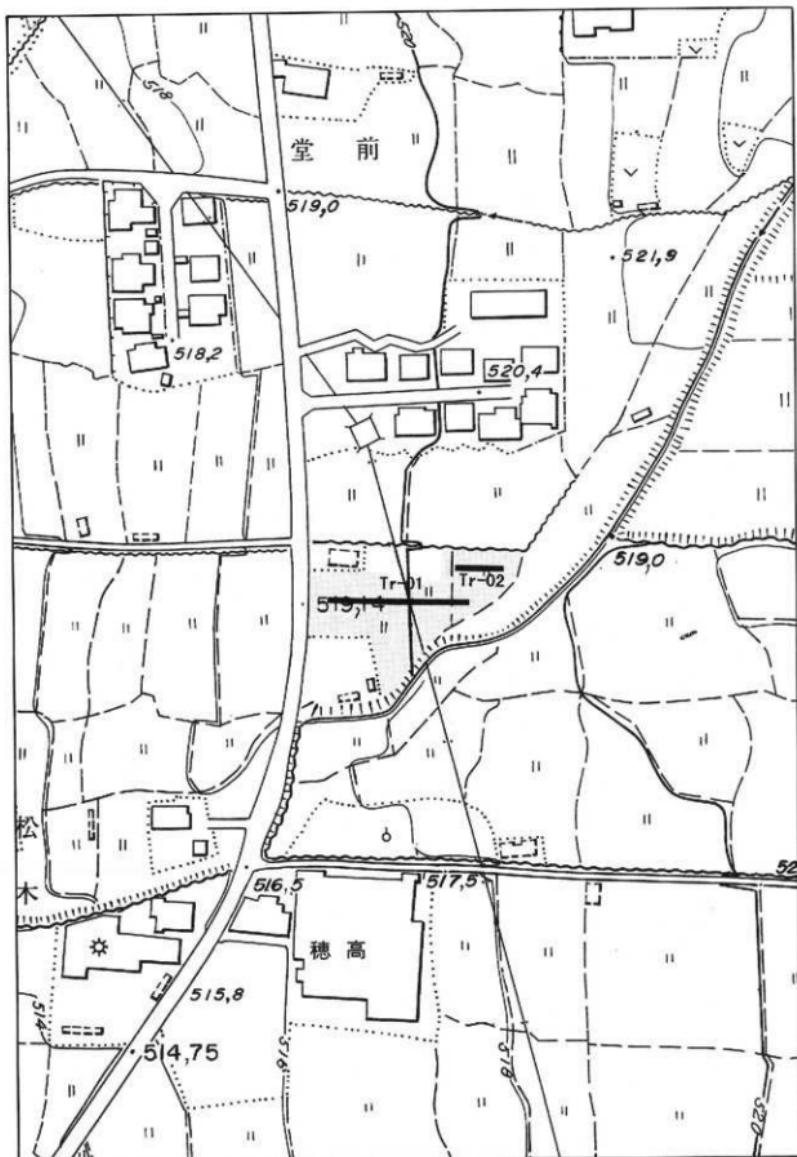
調査結果

開発予定地内に東西方向2本のトレンチを設定し、バックホーによる掘削を行った。その結果、いずれのトレンチでも遺構・遺物はまったく検出されず、遺跡は今回の調査地点には広がっていないことが確認された。

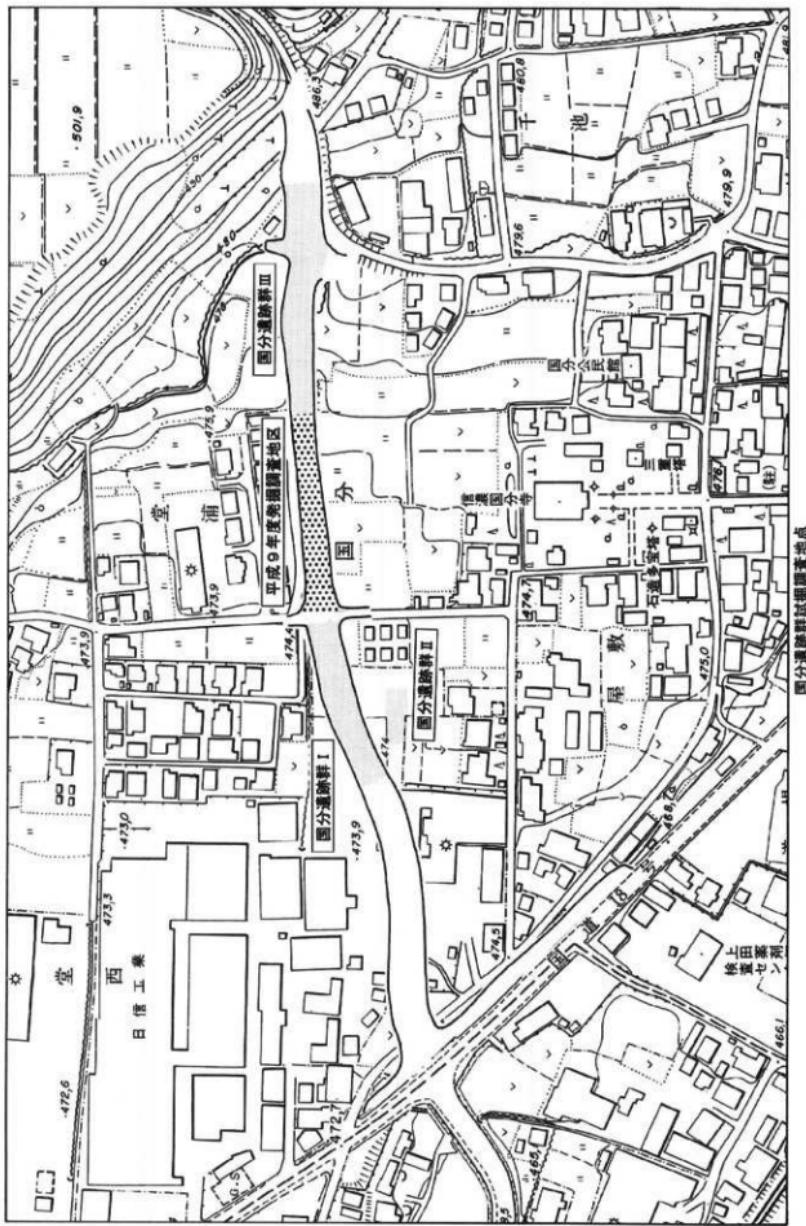
土層柱状図

	0cm
1	1 耕作土
30	2 にぶい黄橙色土
2	3 褐灰色土
43	4 にぶい黄橙色土
3	47
4	





染屋台条里水田跡遺跡試掘調査地点



図分測量群試掘調査地点

国分遺跡群 I

- 1 調査地 上田市大字国分字堂浦
- 2 原因 市道川辺町・国分線建設
- 3 開発面積 1,016 m²
- 4 調査日 平成 11年 4月 21日
- 5 調査方法 幅約 1mのトレンチを 4本入れる。
- 6 調査担当者 清水彰

遺跡の位置と経過

国分遺跡群は上田市街地の南東方、現信濃國分寺境内を含む一帯に位置する。本遺跡群は、上沢沖・古城・堂浦・屋敷・堂西の 5 遺跡で構成されている。今回の試掘調査地点は堂浦遺跡にあたり、平成 9 年度発掘調査地の西側に隣接する。『上田市の原始・古代文化』(1977 年・上田市教育委員会)によると、堂浦遺跡は「現国分寺の北方に位置し、水田地帯からは、再建国分寺跡の伽藍の一部と推定される礎石群が認められ、また、その東方のおよそ 15,000 m²の微高地は後・晩期（古墳時代後期～平安時代）の土師・須恵器、施釉陶器の破片が濃密に分布している。」とある。

今回の試掘は平成 9・10 年度に引き続いで市道川辺町・国分線建設用地内の遺構・遺物の有無を確認するため、4 本のトレンチを設定した。トレンチ番号は『平成 9 年度市内遺跡』(1998 年・上田市教育委員会) 中の国分遺跡群からの連番である。

調査結果

Tr08・Tr09・Tr11においてそれぞれ掘立柱建物跡の柱穴と思われるピット、須恵器・土師器の破片を確認したほか、Tr09 で溝跡が検出された。また Tr10 では遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の分布する範囲は Tr08・Tr09・Tr11 を含む区域であると推定されたため、上田市土木課と保護協議を行った結果、工事実施前に発掘調査を実施することで合意した。

土層柱状図

Tr08～Tr11



国分遺跡群 I

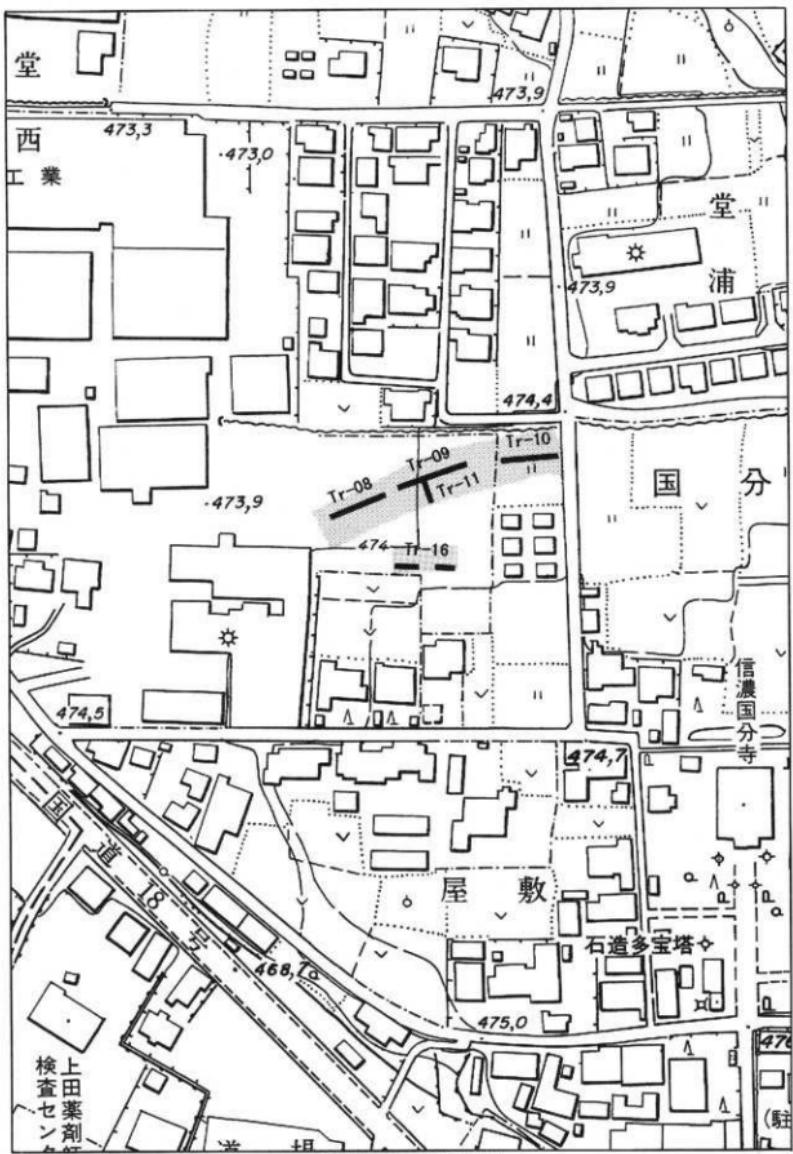


Tr-11 ピット



Tr-08 ピット





国分遺跡群 I・II 試掘調査地点

国分遺跡群Ⅱ

- 1 調査地 上田市大字国分寺堂浦
- 2 調査日 平成11年7月17日
- 3 調査方法 幅約1mのトレンチを入れる。
- 4 調査担当者 清水彰

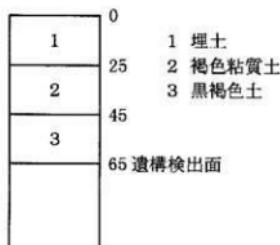
遺跡の位置と経過

国分遺跡群Ⅰ試掘地点での発掘調査を行った結果、掘立柱建物跡とともに南北に延びる道路状の遺構が発見された。この付近では近年宅地開発が盛んに行われており遺跡の破壊が懸念されている。そのため同遺構の状況を把握する目的で、南側に約10m程度離れた地点の確認調査を行うことになった。

調査結果

現地表面下65cm付近で遺構検出面に達した。このトレンチでも溝状遺構が2本平行していることが確認され、国分遺跡群Ⅰ試掘地点の道路状遺構は南側に延びていることが明らかとなつた。国分遺跡群Ⅰ試掘地点の発掘調査の結果出土した土師器・須恵器・瓦等の遺物はいずれも奈良・平安時代に属するものであり、道路状遺構も同時期と推定される。南側には信濃国分寺跡が存在することから、双方の関連性が注目されるところである。

土層柱状図





国分遺跡群III

- 1 調査地 上田市大字国分寺堂浦
- 2 原因 市道川辺町・国分線建設工事
- 3 開発面積 964 m²
- 4 調査日 平成11年7月6日
- 5 調査方法 幅約1mのトレーナーを4本入れる。
- 6 調査担当者 清水彰

遺跡の位置と経過

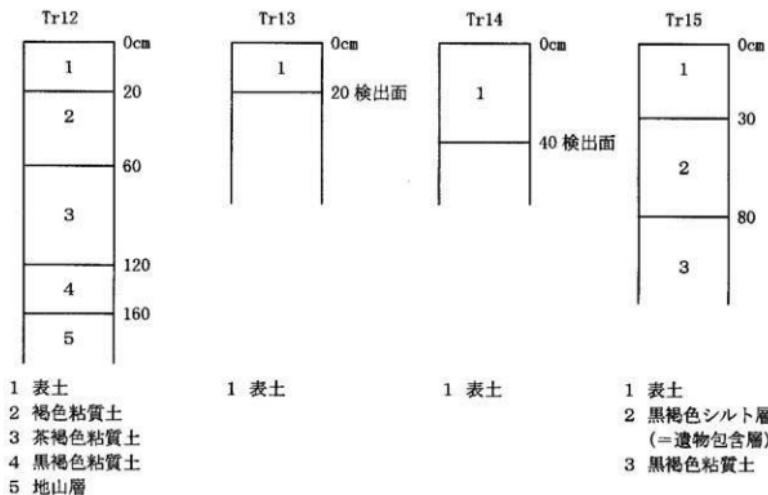
国分遺跡群は上田市街地の南東方、現信濃國分寺境内を含む一帯に位置する。本遺跡群は、上沢沖・古城・堂浦・屋敷・堂西の5遺跡で構成されている。本試掘調査地点は堂浦遺跡にあたり、平成9年度発掘調査地の東側に隣接する。『上田市の原始・古代文化』(1977年・上田市教育委員会)によると、堂浦遺跡は「現国分寺の北方に位置し、水田地帯からは、再建国分寺跡の伽藍の一部と推定される礎石群が認められ、また、その東方のおよそ15,000 m²の微高地は後・晩期の土師・須恵器、施釉陶器の破片が濃密に分布している。」とある。

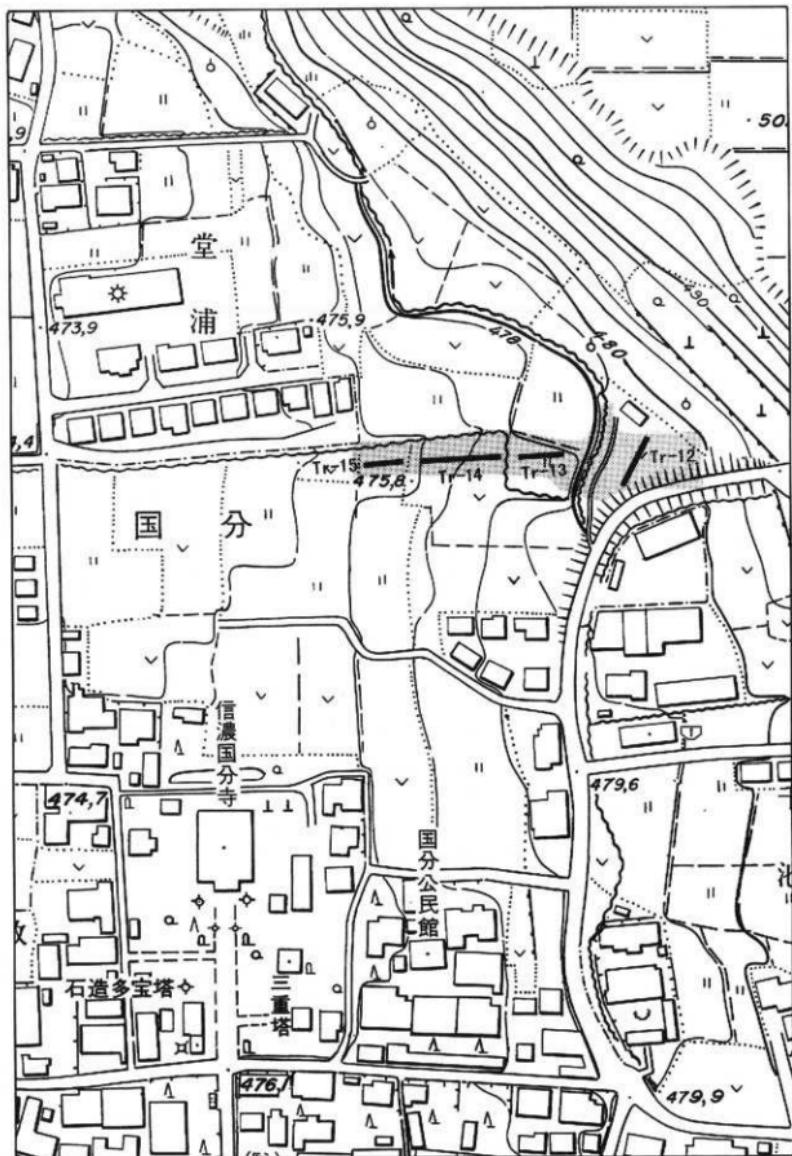
本試掘調査も市道川辺町・国分線建設用地内の遺構・遺物の有無を確認するためのものである。トレーナー番号は『平成9年度市内遺跡』(1998年・上田市教育委員会)中の国分遺跡群からの連番である。

調査結果

Tr12では遺構・遺物とともに確認されなかった。Tr13・Tr14では溝跡と思われる黒褐色の陥ち込みとともに奈良～平安時代の土師器・須恵器・布目瓦破片が出土した。Tr15では黒褐色土の遺物包含層から土師器・須恵器・灰釉陶器が出土した。Tr13・Tr14・Tr15において遺跡の広がりが確認できたことから上田市土木課と保護協議を行った結果、工事施工前に記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。

土層柱状図





国分遺跡群III試掘調査地点



Tr-13 溝跡



Tr-14



反田遺跡

- 1 調査地 上田市大字福田字福田
- 2 原因 主要地方道上田丸子線バイパス建設工事
- 3 開発面積 4,700 m²
- 4 調査日 平成 11 年 10 月 18・19 日
- 5 調査方法 幅約 1m のトレーナーを 5 本入れる。
- 6 調査担当者 小笠原 正

遺跡の位置と経過

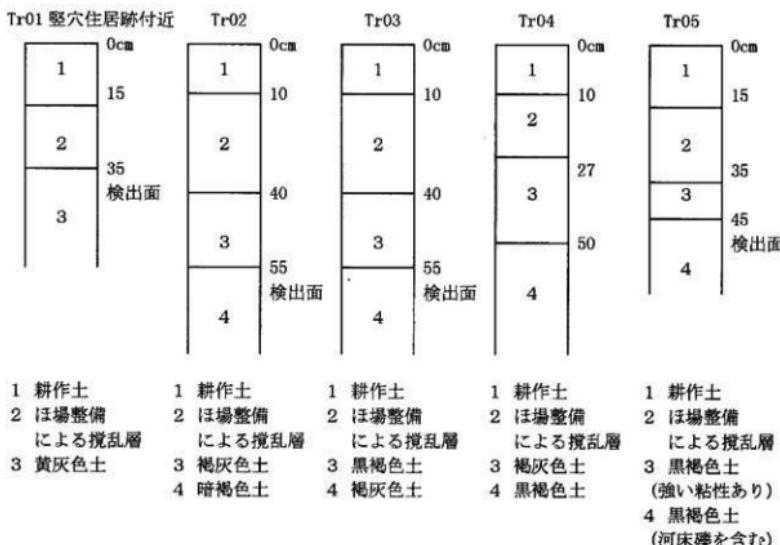
反田遺跡は上田市街地西部の福田地籍にある。国道 143 号線下産川橋の南西、湯川の左岸に沿って存在する。平成 11 年 9 月、上田建設事務所から上田丸子線バイパスを建設したいとの連絡があつたため、用地買収の完了後に試掘調査を実施することになった。

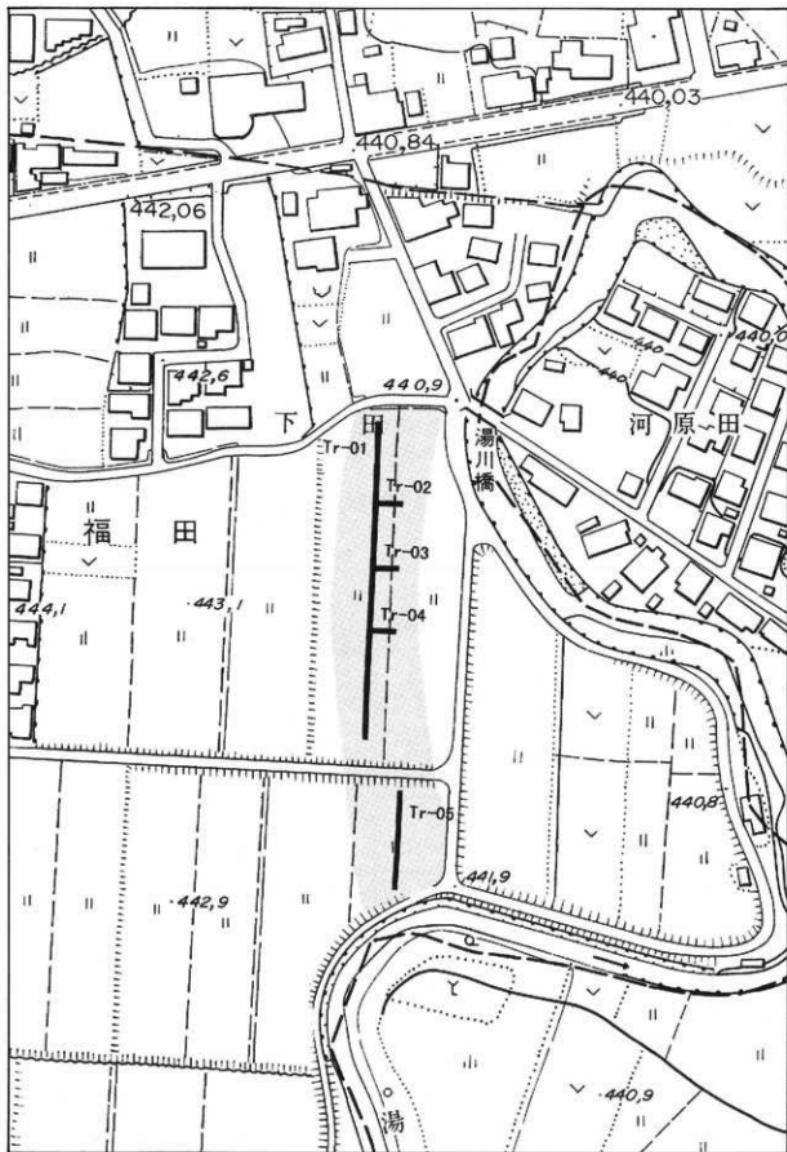
調査結果

道路予定地内に 5 本のトレーナーを設定し遭構の状況を把握することとした。その結果 Tr01・Tr02 交点付近では溝状遭構 2・堅穴住居跡 1 が確認され、堅穴住居跡では短頭甌が出土した。(遺物実測図・写真図版参照) Tr03 ではピット 1・溝状遭構 1、Tr05 でピット 1・黒褐色の陥込みを確認した。また、各トレーナーともに包含層と思われる黒褐色土層内から須恵器・土師器の破片が出土している。

以上の調査結果から 10 月 25 日に上田建設事務所と保護協議を行い、平成 12 年度中に遺跡の存在が確認された約 3,600 m²につき発掘調査を実施することで合意した。

土層柱状図





反田遺跡試掘調査地点



反田遺跡
Tr-01 竪穴住居跡・溝跡



Tr-05



Tr-05 土層断面

国分寺周辺遺跡群

- 1 調査地 上田市大字国分 1,386
2 原因 上田市立神川小学校屋内運動場改築工事
3 開発面積 1,600 m²
4 調査日 平成 11 年 11 月 8 日
5 調査方法 幅約 1m のトレンチを入れる。
6 調査担当者 小笠原 正

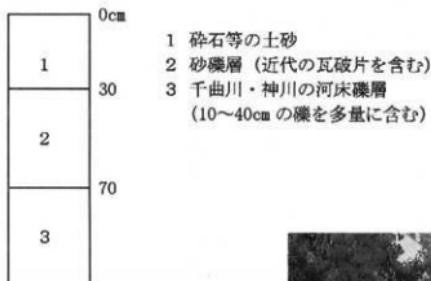
遺跡の位置と経過

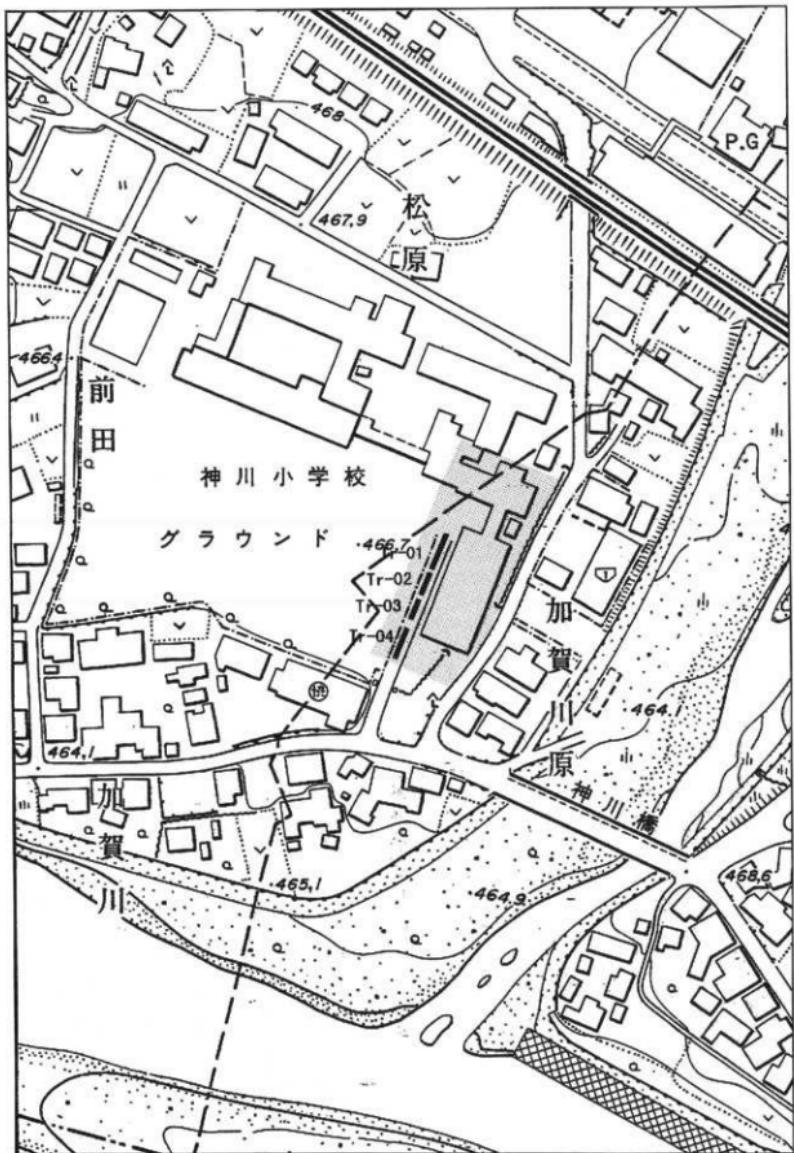
国分寺周辺遺跡群は上田市街地の南東方、信濃國分寺史跡公園を中心とする一帯に広がっている。本遺跡群は浦沖・前田・仁王堂・明神前・堀・西沖の6遺跡により構成されている。今回の試掘地点は最も南東寄りの前田遺跡に隣接した字加賀川原地籍である。平成 11 年 10 月、上田市教育委員会庶務課から同地籍で神川小学校体育館改築工事を行いたいとの連絡があったため、建設工事着工前に試掘調査を実施することになった。体育馆の敷地は東側が約 30mほどで神川の河川敷となる地点であるが、遺跡の東南端を把握する上からも試掘調査が必要であると判断した。

調査結果

体育馆は試掘の時点では使用中であったので、改築によって新たに建物敷地となる隣接の校地内道路部分を調査した。南北に4本のトレンチを入れ土層を確認したところ、いずれのトレンチにおいても構造・遺物とともに全く確認できなかった。遺物包含層も無く千曲川・神川の砂礫層が厚く堆積しており、この地点には遺跡は広がっていないことが確認された。

土層柱状図





国分寺周辺遺跡群試掘調査地点

常入遺跡群（下町田遺跡）

- 1 調査地 上田市常田三丁目 15-1
- 2 原因 信州大学織維学部福利厚生施設建設工事
- 3 開発面積 800 m²
- 4 調査日 平成 12 年 1 月 4・5 日
- 5 調査方法 幅約 1m のトレンチを 3 本入れる。
- 6 調査担当者 中沢徳士

遺跡の位置と経過

常入遺跡群は、信州大学織維学部の敷地から常田池南方にかけて広範囲にわたる遺跡である。遺跡群は全部で 7 遺跡から成り、北部では上町田・下町田の 2 遺跡、中央部で中村・西町田・東町田の 3 遺跡、南部で手筒山・藤ノ森の 2 遺跡が続いている。一帯では以前から弥生時代後期から平安時代にわたる遺物が出土している。

下町田遺跡は平成 8 年に大学院棟新設に伴う発掘調査で弥生時代後期の竪穴住居跡 10 件と箱清水式土器を出土し、続く平成 11 年の遺伝子実験棟建設時の発掘調査でも弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡 25 件と箱清水式土器を出土している。

平成 11 年 12 月信州大学施設部から福利厚生施設建設を行いたいので事前に発掘調査を実施して欲しいとの連絡があった。このため、現地で保護協議を行い試掘調査を実施することになった。

調査結果

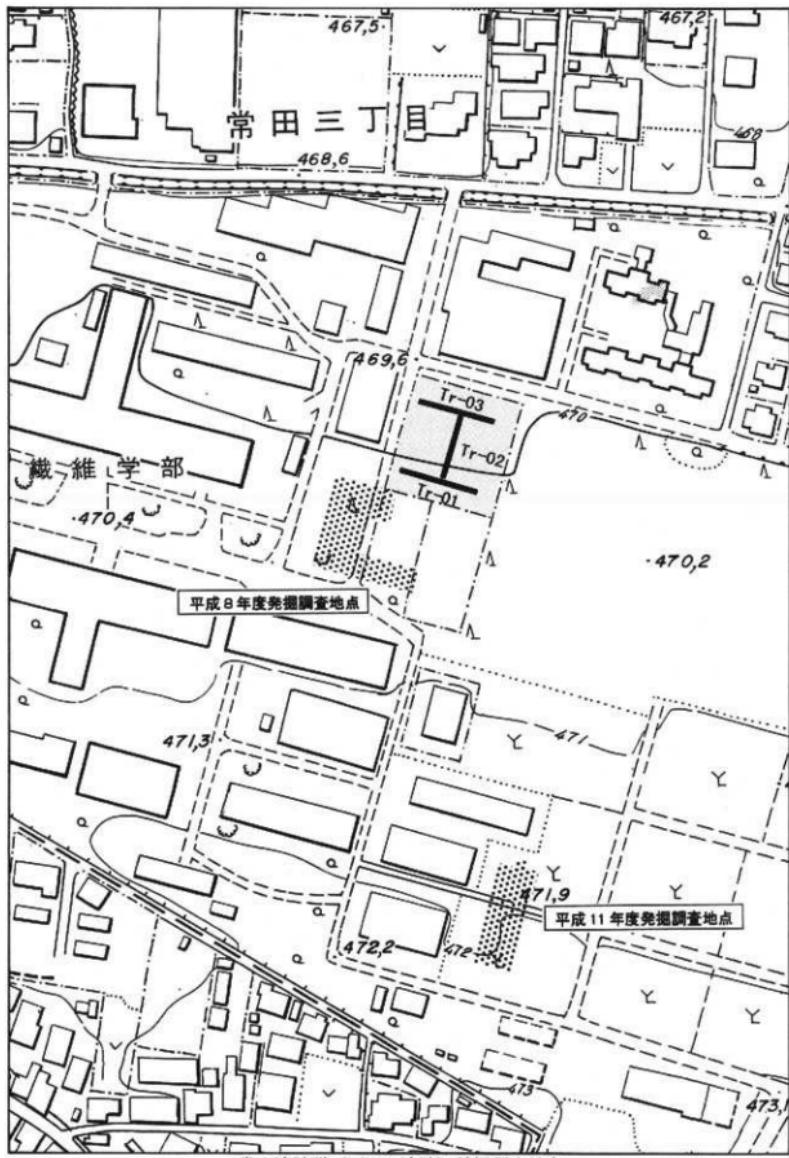
Tr01 では少量の弥生土器片と、ごく薄い遺物包含層が確認されたが、遺構は検出されなかつた。Tr02 は Tr01 と直交する形で南北方向にトレンチを入れた。Tr01において確認されたごくわずかな包含層は Tr02 では次第に薄くなり、やがて消滅する。遺構はまったく確認されなかつた。また Tr03 でも遺構・遺物の検出はなかつた。

この結果、今回試掘した地点の南側に隣接する平成 8 年度調査地点が遺跡の北端にあたることが確認された。

土層柱状図

Tr01	Tr03
0cm	0cm
1 グランド客土	表土
10 2 灰白色砂礫土 (=客土)	25
20 3 2~4 漸移層	石炭の
4 黒灰色砂礫土	ストーブ灰
30 (=客土)	30
5 4~6 漸移層	褐色砂質土
50 6 灰色粘質土	38
7 橙褐色粘質土	6
65 8 黒灰色砂礫土	43
75 (=包含層)	7
9 灰褐色粘質土	50
80	8
95	60
9	9





常入遺跡群（下町田遺跡）試掘調査地点

新田遺跡

- 1 調査地 上田市大字中野字新田
- 2 原因 上田市立塩田中央保育園移転建設工事
- 3 開発面積 3,567 m²
- 4 調査日 平成 12 年 2 月 23 日
- 5 調査方法 幅約 1m のトレンチを 3 本入れる。
- 6 調査担当者 小笠原 正

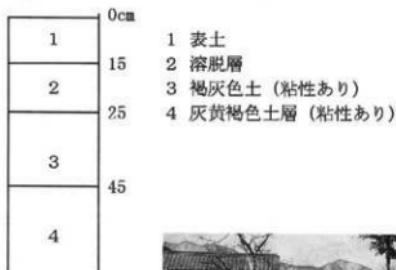
遺跡の位置と経過

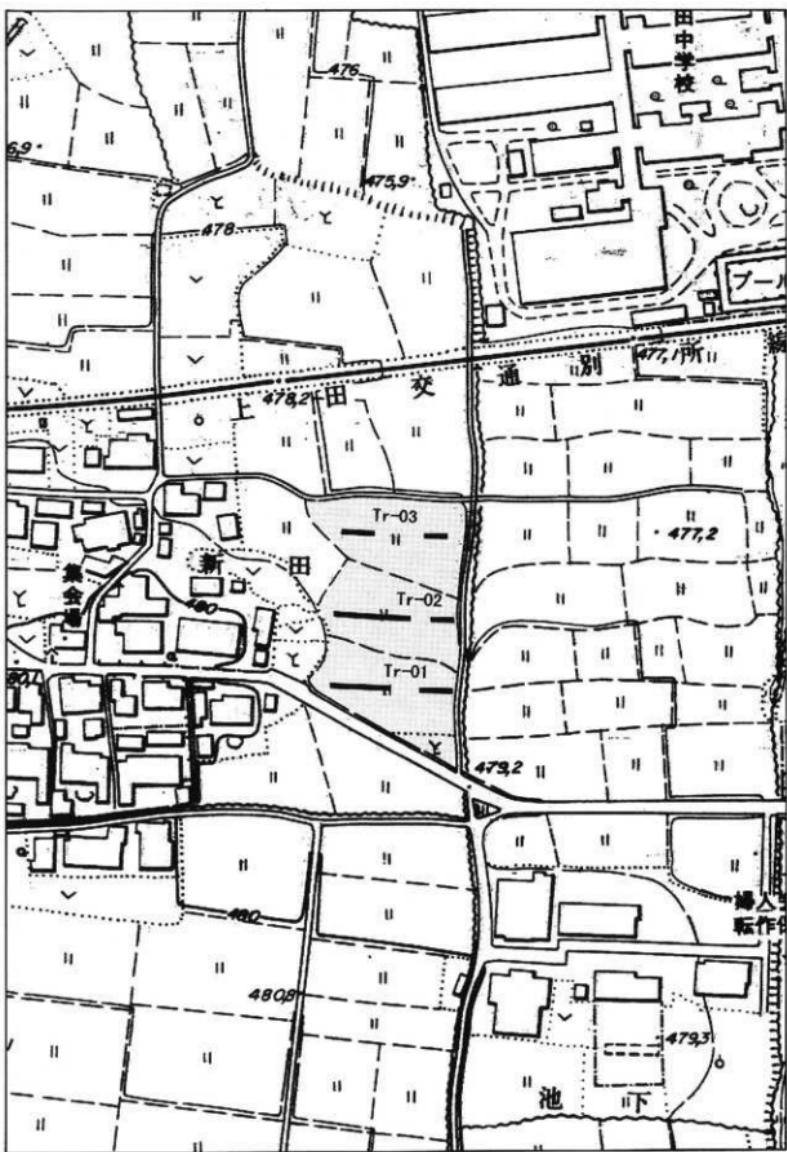
新田遺跡は塩田平中央部、上田市立塩田中学校の南側の水田地帯に位置する。『上田市の原始・古代文化』(1977 年・上田市教育委員会)によると「およそ 6,000 m²にわたって、(古墳時代)後期の土師・須恵器が出土する。」とある。平成 12 年 1 月 28 日、上田市保育課から塩田中央保育園移転工事を行いたいとの連絡があった。このため、事前に試掘調査を行い遺跡の有無を確認することになった。

調査結果

建設予定地内に東西方向のトレンチ 3 本を入れ、遺構・遺物の確認を行った。その結果、いずれのトレンチにおいても遺構・遺物ともに全く確認できなかった。

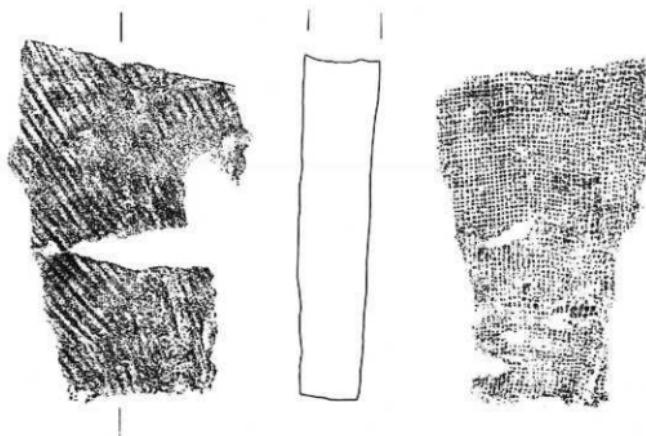
土層柱状図



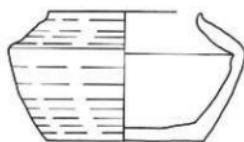


新田遺跡試掘調査地点

国分遺跡群Ⅲ 布目瓦(Tr-14)



反田遺跡 短頭壺(Tr-01 壁穴住居跡)



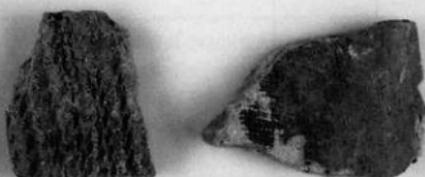
0 10cm

試掘調査出土遺物

国分遺跡群Ⅲ
布目瓦 (Tr-14)



国分遺跡群Ⅲ
布目瓦 (Tr-13)



反田遺跡
短頸壺 (Tr-01 穴住居跡)



調査報告書抄録

ふりがな	しないいせき		
書名	市内遺跡		
副書名	平成11年度市内遺跡発掘調査報告書		
シリーズ名	上田市文化財調査報告書		
シリーズ番号	第83集		
編著者名	小笠原正		
編集機関	上田市教育委員会		
所在地	〒386-0025 長野県上田市天神二丁目4番74号 TEL0268-22-4100		
発行年月日	2000年3月24日		
ふりがな 所収遺跡名	コード 市町村	試掘・事業 区域面積 (m ²)	調査原因
そめやだいじょうりくすでんあといせき 染屋台条里水田跡遺跡	20203	52	1,522 共同住宅建設
ごくぬせきぐんいち 国分遺跡群Ⅰ		54(229)	1,016 市道川辺町・国分線建設
ごくぬせきぐんに 国分遺跡群Ⅱ		54(229)	10 確認調査
ごくぬせきぐんさん 国分遺跡群Ⅲ		54(229)	964 市道川辺町・国分線建設
ごんないせき 反田遺跡		118(444)	4,700 主要地方道上田丸子線バイパス建設
ごくぶんじゅうへんのせきぐん 国分寺周辺遺跡群		56	1,600 神川小学校体育館建設
ときいりのせきぐん(しもおちだいせき) 常入遺跡群(下町田遺跡)		57(325)	800 信州大学織維学部福利厚生施設建設
しんでんのせき 新田遺跡		223(641)	3,567 塩田中央保育園移転建設

* 遺跡番号の()内は、『上田市の原始・古代文化』(上田市教育委員会1977年3月)に記載された遺跡番号である。

上田市文化財調査報告書 第83集

市内遺跡

平成11年度市内遺跡発掘調査報告書

発行 平成12年3月24日
発行者 上田市教育委員会
〒386-0025 上田市天神二丁目4番74号

印刷 田口印刷株式会社
